

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成26年度採択分）
「日本の癌研究についての国際情報発信と情報のオープンアクセス化に向けた取り組み」
（課題番号：264002）

学術団体名：日本癌学会

学術刊行物の名称：Cancer Science

事業期間：平成26年度～平成30年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

Cancer Scienceは、我が国を代表し、癌研究・癌の臨床の広い研究領域をカバーする学会である日本癌学会の学会誌である。1909年に世界で初めての癌研究に関する学術誌「癌」として創刊され、2003年に「Cancer Science」誌と改名し、学会員（約16,000人）に加え全世界で8,300以上もの図書館等にオンライン配信され世界的に広く普及、評価される国際的科学誌である。Cancer Scienceの優れた内容をより広く世界の癌の基礎研究者・臨床医に届け、同誌を質の高い癌研究の成果発表・議論の場とするべく、2014年1月より完全にオープンアクセスジャーナルとした。競合他誌に比べて早くから完全オープンアクセス化を行ったことを通して、本誌から発信される癌研究が世界をリードすることを目指している。国内外からの優れた論文の出版数を増加させることにより、インパクトファクターの高い雑誌となることが期待され、世界における認知度をさらに向上させる。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- 1) 2014年1月からオープンアクセスジャーナル化を実施する。
- 2) オープンアクセス化に伴う読者・論文投稿者の増加によって、海外からの優れた論文の出版数を増加させる。3年以内に海外論文の採択率を現在より30%以上になる程度まで質を高め、現在30%である海外からの発表論文比率を50%レベルまで高めることを目指す。
- 3) 3年以内にダウンロード数を約50%増加させる（2012年実績の593,020ダウンロードを約889,000に上げる）。
- 4) 国際交流の促進を通して国外からの優れた総説論文を出版し、世界における認知度をさらに向上させる。
- 5) オープンアクセスジャーナルに転換後、3年以内にインパクトファクター(IF)を4以上にすることを目標にする。
- 6) 4以上のIFを維持しながら、掲載論文数を毎年5%増加させる。

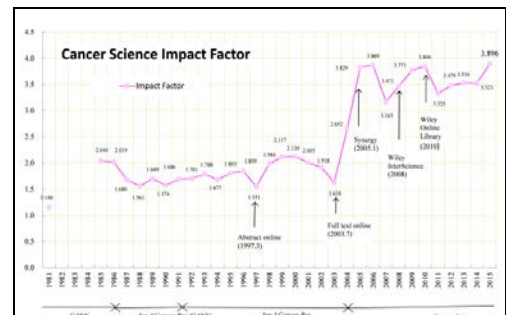
2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

- 1) 2014年1月からフルオープンアクセスジャーナルとした。
- 2) 2015年時点で年間735,000フルテキストダウンロードを達成し、2012年から24%増加した。2016年末までに790,000ダウンロードに達し、2012年から33%増となる見込みである。
- 3) インパクトファクターは2016年に過去最高値3.896まで上昇し、目標の4に迫っている。また癌研究分野科学誌213誌中62位と世界でも上位30%に入っている。

・今後の計画

- 1) 平成29年1月より日本癌学会会員の掲載料を値下げし、会員がさらに投稿しやすい環境を提供する。海外のAssociate Editorとの交流を深め、世界的認知度の向上を目指す。
- 2) 論文の質を担保し、インパクトファクターを維持しながら掲載論文数を毎年5%増やすことを目標とする。
- 3) 日本癌学会学術総会でのEditorやAssociate Editorによる論文執筆セミナーを継続し、著者育成とジャーナルの認知度向上を図る。



(上図:IFの推移、下図:日本癌学会学術総会におけるCancer Scienceセミナー)